

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 2月14 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300450
法人名	株式会社ケイシン
事業所名	グループホーム太陽の家
所在地	鹿児島県鹿屋市今坂町12405-25 0994-44-6581
自己評価作成日	平成26年2月14日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

保育園が隣接しており、毎日子供たちの笑い声を聞いたり、園庭で遊んでいる姿を目にすることが出来、安らげる場所になっていると思います。居室はホールを取り巻くように配置され、人の気配が常に感じられる環境になっています。運営者は人のつながりが希薄になっている時代だからこそ絆を大切にしていきたいという思いで、高齢者福祉・幼児教育・園芸福祉に力を注いでいます。職員は入居者の思いにそえるように、目配り・気配り・心配りを行い、常に笑顔で真心込めた献身的な介護を目指し、入居者の自立支援を重視した「できるだけ待って、出来ないところを段階的に支援する」ケアに取り組んでいます。医師の往診の体制を築き、家族等の要望に沿って看取りも実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿屋市郊外の緑豊かな地に、系列の保育園と隣接して建てられた2ユニットのグループホームである。保育園の体育館を改装したA棟は、舞台はそのまま残しており、春の入園・卒園式には今も活用される事から利用者も楽しみの行事になっている。B棟は、利用者の身体状況に柔軟な対応が出来るように特殊浴槽が完備されており、重度化傾向の利用者に対しても安心してゆったりとした入浴支援ができるように配慮されている。2ユニット共に天井が高く、天窓からの自然の採光は明るく開放的な造りになっている。排泄の自立支援には特に力を注ぎ、多数の改善が見られている。職員は粘り強い段階に応じた排泄訓練を行うと共に、個々の排泄パターンの把握や適時の誘導に依る質の高いケアが功を奏している。職員のアイデアから始まった「貯金体操」や「買い物ツアー」は利用者のやる気を引き出す一助になっており、見守りに配慮した対面キッチンへの改装も職員の意見で実現したものである。管理者は現場の職員の気付きや要望などはすぐに検討し、実践へ向けてサービスの質の向上へ繋げる努力をしている。町内会の運動会や秋祭りには利用者の参加が恒例となり、折に触れ地域の一員に戻れる支援を実践できている。開設より14年目を迎え、地域の理解と協力が得られる関係性も構築できしており、利用者、家族の安心の「家」として地域に溶け込んでいるホームである。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に根差した共同生活居住を理念に揚げ、理念に沿った介護目標をホーム内に掲示し、介護の基本となるように努めている	職員は常々、理念に沿って笑顔を絶やさず気持ちを込めたケアを実践に繋げている。2ユニット共通の介護目標も併せて、月1回のミーティング時に振り返りを行い地域との関係性や利用者の自立支援を重んじたケアに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域の祭りや行事に参加している。学生の職場体験うを受け入れている。ホームの夏祭りに近所の方を招待している。	町内会に加入しており、運動会や秋祭りなどの利用者参加の地域行事も恒例になっている。ホーム独自の行事への呼びかけはチラシ配布や、町内会長との懇意な関係性により近隣住民の参加も得られている。ヴァイオリン演奏やリハビリ踊りなどの多様なボランティアの受け入れも盛んである。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の徘徊模擬訓練に参加し、認知症についての理解を深めてもらえるようにしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況を報告し、改善点や補う点を話し合い、サービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、行政、家族代表や有識者などの参加を得て、ホームの状況報告や問題点を提議し話し合いの機会となっている。改善策をサービスの質の向上に繋げる努力をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の職員に参加してもらい、活動状況や実情を報告し、意見を頂いたり、研修の案内をしてもらったり、ホームに必要な情報があったら流してもらったりしている。	運営推進会議への参加をもらったり、生活保護・介護保険などを通じた相談をしている。担当者がホームへ様子を見に来ることもあり、感染症の情報交換など、双方に良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を2カ月に1回実施し、居室をラウンドしながら、ベットの位置や家具の位置等を確認し、安全管理面においても、環境整備を行い常に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は夜間以外はずせず、外出傾向の利用者については動きを目で追い、さりげなくついて行くなどの威圧感のない支援に努めている。言葉かけや長時間の座位など身体拘束に関わる細かな事項に関してはミーティング時の勉強会を通して常に職員の共有意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待や身体拘束について勉強会を行い、外部研修にも積極的に参加し、理解を深めてケアに生かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、職員全員に伝達講習を行い、理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分時間をかけて重要事項説明書や契約書に基づき、ホームの理念や介護に関する考え方、活動や医療連携、看とりの指針等詳しく説明し、納得同意を得たうえで契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回家族会を通じて要望や気づき等の意見を聞き今後の介護に活かすよう努めている。	7割～8割の出席率が得られる家族会を年3回開いている。職員を外して、家族間のみ話し合いも持たれるなど、意見や要望を聴き取る大事な機会になっている。今後は外部評価を通して得られたアンケートの結果に対しても、家族会やホーム便りを活用して返答をし、サービスの質の向上へ繋げて行く意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで気づきや意見を出してもらい、今後の運営に活かしている。壁紙・床材の張り替えや、台所の改修を行ったり福祉用具の購入を行っている。	管理者は利用者に関わりの深い職員の意見や気づきを大事にしている。利用者のリハビリの一環として、体操することでシールがもらえる貯金体操や見守りに配慮した対面式キッチンへの改造なども職員のアイデアで実現したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と5つのグループホームの管理者会を月1回行い、代表者も職場や職員の状況を把握し、職場環境や条件の整備をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ある内外の研修会に職員が積極的に参加できるように配慮してもらい、研修報告をミーティングで行っている。また、働きながらの資格取得も奨励し、勤務体制の調整などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、グループホーム連絡協議会の理事を務め、認知症セミナーの企画や研修会の運営に努め、他のグループホームと連携を取り、職員間の交流が図れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった場合は、必ず事前に本人及び家族と面談し、心身の状態や生活歴、要望等を把握しコミュニケーションを取り、施設見学をして頂き、入居時の不安を和らげるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、介護状況の経緯や、ご苦労や悩み等をおききして、施設の理念や介護目標、提供するサービスなどを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で必要に応じ、その都度サービスの検討、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園芸や家事・季節の行事・食べ物等生活場面で入居者から教えて頂く機会を意識的に作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り、クリスマス会等一緒に過ごす機会を設けたり、家族とともに協力して入居者を支援していくことを確認し、ケアプランに位置付けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所への外出の支援や、家族との墓参り等の支援をしている。また、親戚や知人の来訪を受け入れ、大切な人との関係が続くように支援している。	知人に連れられて食事つきのカラオケを楽しんだり、家族により2・3カ月に1回の外食や墓参に出掛ける利用者もあり、馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うお友達とおしゃべりが出来るように座る位置を考えて楽しく過ごせるように支援したり、お茶の時間等職員と一緒に参加して会話が弾むように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方は退去後も、介護相談を受けたり、面会に行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から本人の思いや希望を把握し、意向に沿うように支援している。	利用者の表情や言葉をはっきり聴き取り、職員の頬をなでたり胸に手を当てるなど個々の所作をしっかりと把握することで思いや意向の把握に努めている。ホーム側からの面会の呼び掛けにより最近は家族の面会が増えてきており、家族を通しての利用者の思いや意向の把握にも繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴やこれまでの暮らしぶりやサービスの利用状況を家族やケアマネジャーより情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活歴や生活習慣、心身の状態を把握し、出来ることを見出し、本人の全体像の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見は面会時や電話で聞き、介護計画に取り入れている。月1回のミーティング時に個々の入居者の状態を話し合い介護計のも作成とモニタリングを行っている。	ミーティング時に現場の職員の気づきや現状を聞き取り、職員全体で情報を共有し、話し合いをしている。面会時や電話を利用して家族へも利用者の現状を説明し意見や要望を基にして、家族支援も含めた現状に即した介護計画になっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケア実践結果を個人表に記録し職員間で情報共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々の必要な日用品の購入や買い物支援、通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを利用し、カラオケに出かけたり、そうめん流しに出かけたり、出前をとったりして楽しみを持てるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医の通院支援を行ったり、医療連携の為の情報提供を行っている。また、往診の体制を整備している。	殆どは2週間に1回の往診を利用している。かかりつけ医の定期受診は家族にお願いしている。突発的な事故や急病時は職員による同行を支援している。何れも双方での情報の共有が出来る。今後はヒヤリハットの取り組みを強化し、事故防止への職員の意識付けを更に高めていく意向である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で気づいた情報を職場内の看護職員に相談している。また、看護職員は日常の健康管理を行い、医療面の助言、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、介護サマリーを添付し入院前の経過を詳細に伝え、入院中は主治医担当看護師、医療相談員と密に連絡を取り早期に退院が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針に沿って、本人や家族の意向を踏まえ、状況の変化があれば本人家族に説明を行っている。又主治医と連携し、全員で方針を共有し、安心して納得した最後が迎えられる様支援している。家族会等で終末期についての話題を話し合っている	ホームの方針である「重度化した場合の対応に係る指針」を明文化している。利用者の人生に付き合うというホームの考えにより既に8例の看取りの経験がある。常勤の看護師を始めとし、主治医や医療との連携を密にとれる体制が出来ている。段階に応じ家族も含めて話し合いを重ねた上で、納得の得られる終末期の支援が実践されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救命救急の訓練を受け実践力を身につけている。又、内部研修に緊急時の対応の勉強会を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練や初期消火訓練通報訓練を行っている。地域の方の参加も頂いている。	年2回の防火訓練の他に、夜間想定での毎月自主訓練を実施している。民生委員の方を緊急連絡先に入れる等、住民との協力体制が出来ている。備蓄は隣接の保育園に共有保管されている。ホームは地域の災害時の避難場所にも指定されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴や生活習慣、心身の状態を把握し、出来ることを見出し、本人の全体像の把握に努めている。	親しみのある昔の呼び方で、名前を呼ばれることで反応がある利用者に対しては、家族に了承を取って個々に合わせた対応をしている。排泄時の失敗時など特に羞恥心へは最大の配慮を心掛けた支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の気持ちや権利を守る事を重視し、声掛けや対応を行っている。入居者の誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の一人一人の体調に配慮しながら、入居者の生活のリズムに合わせて、食事や入浴レクリエーション等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問理容師を利用し、2～3カ月に1回カットや毛染めをしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ自家栽培の野菜を使い、下ごしらえ等、入居者と一緒に行い、食事を楽しめるよう支援している。	ホームにラーメンの出前を取ったり、家族と回転寿司や蕎麦屋に出掛ける利用者もいる。職員は献立や調理法を工夫し毎回の食事は利用者の楽しみであり、完食である。職員と共に作る、らっきょう漬けや切り干し大根の他、そば打ちやちまき作りも季節を感じられる支援になっている。お正月にはカンパチの解体ショーもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量をチェックし職員が情報を共有している必要に応じてその人に合った飲み物を提供し。必要な摂取量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けや介助を行い、うがいが出来ない人は、歯磨きシート等を使い口腔ケアをしている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意便意の無い方も排泄パターンを把握し適宜トイレ誘導し、トイレでの排泄が出来るように支援している。状況に応じてオムツ～パンツへの移行を促している。	入所時に比べ改善へ向かった利用者が多数いる。排泄チェック表の活用や段階に応じた排泄訓練など、自立に向けての排泄への工夫や職員間での援助方法を共有することで、質の高い排泄ケアに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を行い個々に合った便秘対策を検討し、実施している食事の工夫や乳製品を取り入れたり水分管理や適度な運動をしたり、毎朝トイレに座り排便習慣を付けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者のその日体調や希望を確認して、入浴を支援している。入浴を拒む入居者には、入浴の順番をかえたり曜日を変更したりして、快い入浴を支援している。	週に3回、午後からの支援をしているが、朝風呂や順番など個々の希望に応じた柔軟な対応をしている。入浴をためらう利用者には緊張をほぐす声掛けから始めて、ゆったりと入浴が楽しめる雰囲気づくりを工夫している。個浴と特浴があり、利用者の身体状況に応じ職員も2人介助で手厚い体制になっ	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に体を動かすなどして、生活リズムを整えている又、個々の疲労度や体調を観察し、昼寝や居室での休息をうながしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬の説明書を整理し、どの職員が見ても内容を把握できるようにしている。変更があった場合は、申し送りノートを活用し、与薬時は、ダブルチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように出来るようなことをお願いして感謝の言葉を伝えている。切干大根、そば打ち、ちまき作りなど、経験や知恵を発揮できる場面を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣・温泉・そうめん流し・ぶどう狩り・個々の買い物支援や散歩など、その日希望によって戸外に出掛けられるように支援している。	保育園のマイクロバスを借りて初詣やソーメン流しなど、季節に応じて出掛けている。気候のいい時期にはA B棟の前のテラスで、隣接の保育園の子供たちの様子を眺めながらお茶を飲む事もある。「買い物ツアー」と銘打って、近隣のスーパーへ買い物に行く事も日常的にあり、施設にとじ込まない五感の刺激を促す支援を実践出来ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の支援で小額のお金を持っている方もいる。家族よりお金を預かりホームで管理して、買い物に行く時は、本人が使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族より電話が来たり、本人より要望があった時は、電話をかけられるように支援している。遠方の家族の方には、ホーム便りや写真を送り喜ばれている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには、職員や入居者が協力して作った季節を感じられる壁画や写真があり窓からは、菜園が眺められる。天窓からは自然の光が取り入れられるようになっている。	天窓からの自然の陽射しは明るく開放的な空間である。大型のソファが置かれ、壁には季節の作品や行事での利用者の生き生きとした写真が貼られており、家族の希望があれば持ち帰ることもできる。窓からの景色で季節の変化を感じながら利用者は其々にゆったりと過ごせる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルやソファの配置、テラスの椅子の位置を工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、家族写真、仏壇、小物入れなど馴染みの物を持ち込み、安心して過ごせるように配慮している。	居室はフローリングと畳の間があり、希望や身体状況に応じ選択できる。家族の写真や仏壇、時計など馴染みの品が持ち込まれ、利用者の個性を大事にして安定した暮らしが送れるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室は分かりやすく目印や表示をしたり、手すりの設置をしている。状況に合わせて、洗濯ものたたみ、台所仕事を無理なく出来るように環境整備に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない